授業方法について，独自に工夫している点と，アンケート結果を受けての改善点【創造科学系】

独自に工夫している点
・精神疾患の理解のために、厚生労働省や総務省、警察庁がインターネット上にあげている当事者の動画や薬物等の啓発ビデオ、新しい法律の理解のための動画を視聴するようにし、最新の知識を得ることができるようにした。
・授業の途中でリフレッシュ動画（体操）を行うことを試験的に開始し、集中力や腰痛や肩こりの改善に取り組んだ。
アンケート結果を受けての改善点
・資料の内容や文字の大きさ見えやすさなどについての指摘については反省をして、今年度の授業からさらに改善することとした。

実践場面のVTRを使用し、理論と実践の融合を図っています。
学生との双方向コミュニケーションを企図し、毎回個々にコメントをフィードバックしています。

L科目
画論や作品の基本的な事項に関する情報などを記載したプリントを作成して配布した。それに加えて、画論の内容解説とともに、美術作品に関する内容であるので作品の画像に説明を加えたスライドを作成し、音声データと共に「まなびネット」にアップした。また、オンデマンドの遠隔授業であったため、毎時間講義内容をまとめる小レポートを課し、寄せられた質問に対して毎時間回答した。
今回のアンケートの回答を見ると、「強くそう思う」と「ややそう思う」を足した肯定的な回答が問1で66-80%、問2で50-60%と概ね評価が高かった。これは、授業内容を何度も見直せたり、授業資料を拡大したりできる遠隔授業の良さが反映されたのかと考える。一方、講義内容に即して思考を深めた問1に比べて関連項目を独自に探索する問2の方の評価が低く、今後この点について改善を図りたい。
専攻科目
この授業では平安時代後期に制作された絵巻を取り上げており、作品の基本的な事項や詞書を記載したプリントを作成して配布した。それに加えて、絵巻の内容や見方、詞書と絵との関係などそれぞれの授業内容に即して作品の画像等に説明を加えたスライドを作成し、音声データと共に「まなびネット」にアップした。また、オンデマンドの遠隔授業であったため、毎時間講義内容をまとめる小レポートを課し、寄せられた質問に対して毎時間回答した。
今回のアンケートの回答を見ると、「強くそう思う」と「ややそう思う」を足した肯定的な回答が問1で100%、問2で83%と評価が高かった。これは、授業内容を何度も見直せたり、授業資料を拡大したりできる遠隔授業の良さが反映されたのかと考える。一方、講義内容に即して思考を深めた問1に比べて関連項目を独自に探索する問2の方の評価がやや低く、今後この点について改善を図りたい。

確認できた、アンケート結果は2021年度後期専攻科目だけでした。
回答人数は2人でしたが、その回答に対して、どうコメントを述べていいのかよく分かりません。自身が授業を通して感じたことを述べます。

専攻科目
運動処方に関する理論についてだけでは、インパクトが弱いので、実技を交えた演習を実施しました。
心拍計を装着して、実際の運動時の心拍数を運動別に各自が確認しました。
とても興味をもって学生は取り組んでくれましたが、1日だけの体験でしたので、十分な考察はできませんでした。授業では調べてきた事柄についてグループで報告し合うこと、各自テーマをもってパワーポイントにまとめ、プレゼンを実施したことにより、積極的に取り組み、発表できたことは学生の頑張りの成果でした。

盛りだくさんの内容になってしまい、授業で伝えたかったフォーカスが少しボケてしまったように感じ、反省しました。
逆に、自身は学生から沢山のヒントをいただきました。

以上です。

問1では「ややそう思う」と回答したものが2名で、この受講生は授業で指示された課題・参考文献・資料などを自ら参照したうえで、自分で問題点を深く考え、さらにその考えに基づいて行動していると思われる。問2では、「ややそう思う」が1名、「どちらともいえない」が1名であり、授業を受けたうえで自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し新たな思考を展開し、さらにその思考に基づき行動したかどうかはそれほど確かではない。

自身で調べることを課題として数回課したことが良かったと思われる。

近年はコロナの影響により、教室収容人数に制限がかかったことが大きく、クラスを2つに分けて対面と遠隔を交互に行う方式をとらざるを得なかったが、内容を吟味し、遠隔時のフォローを手厚くするなど、毎週一斉対面ができていたコロナ前に比べて授業内容の質が低下したということがないように努めている。
　専攻科目Ⅰ～Ⅳについては試行錯誤が続いているが、教員採用試験を控える段階にあって、専門教科領域の試験範囲となりうるものを大学で教わっていない（各自の自習に委ねられている）という現実が、学生との問答で見えてきたことが契機となって、普段の授業の中で「知識の補い」の時間を設けるようにしている。教員を目指さないことを決めた学生に対しても教養の一環として参加を奨励しているが、教採を終えたのちは、卒業後を見越し、学習発表会で受け持ちの子どもたちのお芝居に即興的な音楽を付けたい場合、創立〇周年の記念式典に向けて校歌のブラス編曲を校長に依頼された場合など、将来遭遇することになる現場でのあらゆる事例への対処法について実践的な実習を行うようにしている。
　今回のアンケートは、回答者が少なかったために、各項目で示されたパーセント結果について語るには分母が少なすぎる。とはいえ、充実した資料に伴う分かりやすい講義を日々心掛けているため、授業内容への不満の声は少ないはずだと信じたい。ただし、近年は目立って入学前段階における学生たちの専門分野に係る基礎力の低下が目立っているため、特に理論系については、音楽コースを有する高校出身者（経験者）と、まったくの初心者とのあいだに生じる個人差が大きい。これらが混在したクラスを相手に講義を行うには進度調整が大変難しく、初心者に合わせた進度にすると経験者は物足りなさを実感することになるし、逆に経験者に合わせてしまうと初心者はついていけずに取り残されたような感覚に苛まれてしまう。両者に満足してもらうための対策については自身にとっても継続的課題であるが、全員のレベルアップを図ることこそ使命と信じる身としては、まずは初心者に寄り添いつつ、経験者に向けては単なる高校時の復習に終わらせず、その中から「新たな発見」の機会を随所に忍ばせるように心がけている。
さらなる改善点を考えるにあたっては、もっと学生の自由記述による忌憚のない意見を見たいものである。試行→反省→改善のサイクルは教員共通のものであり、「先生になったあとも、いくつになっても勉強。私もいつも勉強です」と普段から学生に話しているので、これからもリアルタイムで学生の反応をみながら各授業の改善に努める所存である。

工夫した点
・2021年度は新型コロナウィルス感染症対応のため、基本的にオンデマンド授業を行った。受講生から対面授業がよいとの声もあったが、何回も教材を見直せた、好きな時間に受講できた、対面だと言いづらい自分の意見が沢山言えたという声もあり、オンデマンドの良さもあったと考えられる。
・1回のみ、講堂に1学年の半数の学生を集めての対面授業として、NPO法人ASTAによる性の多様性に関する講義を行った。特にASTA講義に対して「当事者の方のお話が聞けて良かった」という意見が多くあった。
・担当者全員によるZOOMでのミーティングを重ね、そこでの意見交換を反映させて教材を作成した。

アンケート結果を受けて
・受講後に提出するコメント、レポートに対して分量の多さを指摘する声もあったが、担当者グループとしては、オンデマンド授業におけるコメント、レポートとして適切な量だと考える。
・また、アンケートのグラフを見る限りでは、受講生は全体的には前向きに受け取っていると感じられ、特に改善が必要であるとは考えていない。
・対面授業として運営する場合、授業内容の統一と講師による独自な展開のバランスをどうとるか、という点が課題だと思われる。

遠隔授業では，課題の質と量の設定を工夫している。対面授業では，演習やグループワークを充実させる展開を重視している。今回の結果より，遠隔授業の質と量への高評価が見られたので，引き続きの工夫を行いたいと考える。一方，遠隔授業日の設定が良く分からなかった，という意見については，今後，学生への周知・徹底を十分に心掛ける次第である。

工夫しているのは、対面授業では、人が集うからこそ出来るグループワークやアンサンブルを中心に行なっている点。また、マスクを外さざるを得ないリコーダー演奏に関しては、自宅で学習して課題を提出するかたちをとっている点。改善点は「授業後、自ら深く考える」ような仕組みの授業を心がける点。

指導法を学ばせるにあたり、模擬授業を中心にグループ討議を取り入れたが、十分な討議時間が取れないことが多くあった。時間配分を再考したい。

コロナを考えて、2つのクラスに分けて授業を行っている。

「情報デザイン」という視点で授業を考えております。講義での解説や資料が「伝わりやすい情報」「印象に残りやすい情報」になるための情報としてデザインするというもの。実践場面のVTRとともに提示しています。

アダプテット・コースのため受講者の心身の状況に応じた授業を実施。

工夫している点：昨年度は大学のコロナ感染対策に従い、教室内に全受講生を入室させられなかったため、対面授業とオンデマンドの授業を織り交ぜて行う授業構成を考え、各自が自宅で取り組める絵画技法を中心に課題を作った。改善点：今年度は教室の確保が可能になり、授業を2教室使って完全対面で開講できるようになったので、生徒の状況を細かく観察して、机間指導等も積極的に行う。また、グループ学習を復活し、お互いに刺激しあいながら学ぶ環境を整える。

演習，講義の授業両方ともに映像と資料を用いて情報を提示している点と対話的な授業になるように問いを設定して授業を行っている点が考えられる。改善点は，学生から特に指摘がなかったがアンケートの回答率が高まるように書きたくなるような印象的な授業になるように努めたい。

ICT活用（主に一人台タブレットの有効活用】を目的とした模擬授業は学校現場に出てから有効であると評価された。引き続き取り入れていきたい。

学生にとって教科に関わらず、教育現場で使える内容を多く取り込んでいるので、高評価だった。今年度も継続、発展させて学生のために研鑽し続けたい。

動画教材を作成し、活用している。課題提出の期日を早目に示し、事前学習がしっかりできるよう配慮したい。

自由記述では、「いろいろな人の運動レシピを見ることができたことやおにぎりの具など、教員になってから役立つ知識ばかりで良かったです。毎週対面があったのはこの授業だけでしたが、全然苦ではなく、楽しく受けることができました。」という感想をいただいた。体育科・保健体育科における運動領域は、教科用図書がないため、いろいろな学習指導法を「運動レシピ」と称して取り組んだ。学習指導案につなげる意図もある。今後も、「運動レシピ」に関して修正改善を図っていきたい。

今回のアンケートでは、その回答者の数があまりに少ない為、その結果だけは判断し難い。しかし、実技授業である為、一人一人に合った指導を常に心がけている。

全体として概ね良好な結果であったと考えられる。スポーツ実技を主題として扱うが、その根幹は運動量の確保と運動習慣の形成、また指導技術の定着にある。そういった意味では、新型コロナウイルス対応にかかわり、運動をするうえで十分な形式が取れない中、概ね良好な結果が得られたことについては一定の評価ができるのではないか。また、本講義の履修者は扱うスポーツ種目における経験および技術習熟度の多少の差はあれ、履修者の基盤としては初心者が多くを占めている。授業展開としては、ゲームの運営や、実技指導のための学習を主体的に行うことができ、戦略的かつ実践的にスポーツを楽しめる素養を持ち、育むことができるよう、習熟が進むような形態とした。ルールの理解や基礎技術の習得は、生涯にわたってスポーツを楽しむ上でも、教員として指導にかかわる場合においても重要な素養となる。全体的に満足度がある程度高く見受けられるため、本講義におけるねらいに対し、ある程度効果的な内容を展開できたと考えられるのではないか。授業の展開については大きく変更せずに今後も展開していく予定である。各種目における基礎的な技術の習熟を促し、楽しむ姿勢を養うことで、教員として生涯にわたりスポーツを楽しみ、また指導を実践していくための素養を醸成していきたい。

授業は、受講生にとってわかりやすいことが非常に重要であり、理解を助けるわかりやすいプリントを準備し、毎時間受講生に配布しています。また理解度を図るうえで、一定回数の課題提出も必要と考え、適時まなびネット利用し課題提出を実施しました。その効果もあってか、授業アンケートでは問1の授業での資料、課題に対し取り組み問題点を深く考えたとの回答が90%以上、問2の関連項目についてインターネットや文献で調べ、新たな思考を展開したとの回答が80％以上認められ、一定の成果があったと考えられた。ただし、1月になってコロナ感染が爆発的に増え、数回リモートでの授業実施せざるを得なく、リモートでも授業でのわかりやすさをより検討すべきと思われる。

・対面時には、できる限りペアトーク、グループワークを取り入れて、協働的に学びを深める授業スタイルにしている。また、グループワークの際の負担が特定の個人に偏らないように注意喚起する。・（学生からの指摘に応えて）講義内で使用するプレゼンシートの精選を図るとともに、講義後には、学生の要望に応えて、プレゼンシート（PDF版）を送付し、復習に活用できるようにしていく。・毎回の授業メモや課題ノートを学生に保管させ、最終授業の際に学びの履歴を用いて学習を振り返り、確かな知識の定着を図れるようにしている。・学生のレポートに対し、授業内にフィードバックしたり、よいレポートの内容を紹介したりして、レポートの質を学生自ら高められるようにしている。

専門外の学生でも興味を引くようなテーマを設定するようにしている。また、理解を深めるために実践的な課題を課しており、概ね良い修学につながっていると思う。

・どの学生にとってもデータ容量を気にせず無理なく授業を受けられるよう、遠隔授業の講義データの容量を減らす目的で、動画でなくパワーポイントの音声付を使用している。しかし、動画を希望する学生もいることがアンケートで分かったため、今後は、データ容量が高くても困る学生がいないかも聞き取りながら、動画変換するか検討していく。

L科目はすべてオンデマンド方式（初回を除く。）で行い、試験は対面としました。オンデマンドではパワーポイントでスライド資料を作成し、各資料にはすべて説明の文章を加えました。工夫した点は説明文と、まなびネットへの資料のアップロードのタイミングです。資料の説明文では、対面授業であれば口頭で話すであろうことを、話し言葉としてそのまま文字にするよう心掛けました。一方、アップロードのタイミングは、15回分の資料を授業期間前半にすべて提示し、学習速度の速い学生に配慮しました。自由記述には、「音声での解説がないため理解しにくい部分がある。」とのコメントがありましたので、オンデマンド方式であっても、途中で対面の回を設けるなどの工夫が必要であると思いました。

授業が一方向の伝達にならないよう配慮している。

オンラインであったとしても、対面に近い形で教員自身が登場し解説する動画を作成した。また、学生からの質問に対しても毎回解説動画を撮影し丁寧に回答することにより、学生からの理解もより深まったと考えられる。

・工夫点：分析演習のための動画資料を盛り込むこと。しかし、画像や音声の乱れがあったり、観察ポイントが曖昧であるなどの課題がある。・改善点：授業中のディスカッションを多く盛り込むことと、そのための下調べ予備課題を適切に与えておくことが必要である。また、提出されたレポートや質問へのフィードバックを丁寧にする必要がある。しかしながら、このための仕事時間が極めて不足しており、悩みどころである。

電気を学ぶ者にとって最も基礎的な内容であるため図を多用し、具体的にイメージできるような授業方法をとっている。学習者とのキャッチボールを重要視し授業を進めている。授業者の理解度を確認するため毎回の小テストを実施している。遠隔授業であってもオンデマンドであることにより、概ね授業目標を達成できているようである。[専攻科目（1）]最近の電子デバイスの話題を盛り込み、学習者のモチベーションを維持するよう努めている。遠隔授業であってもオンデマンドであることにより、概ね授業目標を達成できているようである。学生にとって難問な課題に対しては解答の解説をする必要があるかもしれない。[専攻科目(2)]

学生との対話時間を増やすようにしたい

SPは複数学部混合なので学生同士なるべくたくさんのコミュニケーションの機会が持てるチーム編成やゲーム構成をを心がけている。専門科目は教育現場で様々な事象に対応可能なように様々な場面を想定して学生同士の意見交換をおこなうようにしている。

対面授業を軸として、自主研究課題を設置し、個人報告と有志による報告会を開催した。授業後の感想を次の授業でフィードバックすることもある。3時限目、4時限目はほぼ同じ内容で行ったが、中盤からコロナの影響からオンライン方式に切り替えた。3時限目は、コロナ濃厚接触者らとの連絡が不十分になり報告会や提出物の回収・フィードバックが予告通りに進められなかった。また、オンライン授業で使った動画音声が、3時間目には不調だった。アンケート結果の相違部分の要因は納得できる。アンケート結果を真摯に受け止め、オンラインと対面の切り替えや不測の事態のコミュニケーションの取り方を工夫したい。オンラインでのグループディスカッションも取り入れたい。

対面授業では、授業資料を授業前日までにまなびネットにアップし、予習できる状態にしている。また、個人ワーク、グループワークを取り入れている。
3年生、4年生の専門分野にかかわる演習科目及び実験実習科目についてのアンケート結果を確認しました。3年生の演習科目（専攻科目（1））は研究方法について、具体的な演習課題を通して理解すること、4年生の実験実習科目（専攻科目（2））は、自ら設定した研究課題について、目的の応じた方法を設定して調査を実施、分析する課題をだしています。回答者はいずれも1名で解釈が難しいですが、4年生の実験実習科目において、自発的な学びが全くできなかったと捉えられる回答がされており、改善が必要であると感じました。単位取得のために仕方なくやるのではなく、内発的動機に基づいて大学生活最後の課題に取り組むことができるような方向での改善を考えたいと思います。
実習の授業は、事前の練習や予習をきちんとしてきているのだなと感じた。合唱指導法の授業であらかじめ学生たちが予習することが少なかったように、アンケートを受けて感じたので、もう少し、事前に自主的に調べるような項目を増やしていこうと思った。
オンデマンド形式だったので、対面授業のときなら口頭で伝えるのみに留まっていたであろう思いつく限りの細かい注意点を、全て文字にしてパワーポイント資料の中に入れ込んだ。図画工作の活動は文章を読むだけでは理解しにくいことがあるため、写真資料も多く集めて資料の中に掲載した。
授業については、学ばせる内容を確定し、そのための効果的な方法を後から決めている。学生の実態によって、学習形態を変化させています。 昨年見たアンケートの意見で物足りなさや分量の多さを指摘した意見がありました。そのアンケート結果に対する考察は容易でなく、小単元計画の内容選択と配列を検討するにあたって、学習指導要領の項目を実務的にこなす考えから抜け出す考えまでとどきませんでした。中学校の授業時間が少なくても、学ぶ内容の深まりや拡がりを考えた単元を編成する力を育んでいこうと思っています。
学生があまり経験することのないニュースポーツ種目の紹介。学生が主体的に技術練習やゲームに取り組めるようにルールやポイントをまとめた授業資料の提供。
学生自身が考え、仲間との意見交換の中で、新たな気づき、学びに出会えるような工夫を重ねています。E科目については、学生の卒業後の進路が様々であり、進路によってはモチベーションを保つことが難しい学生もいます。E科目の中でではなく、そこまでの3年半の中での工夫を試みたいと考えます。
M1科目，専攻科目：いずれも回答率が10%代前半と低いため、確定的なことは言えないが、問1「授業で指示された課題・参考文献・資料などを自ら参照した上で，自分で問題点を深く考えた。さらに，その考えに基づき行動した。」および問2「授業を受けた上で，自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し，新たな思考を展開した。さらに，その思考に基づき行動した。」ではいずれも「強くそう思う」、あるいは「ややそう思う」以外を選択した学生は2科目全体で1名だったことから、この件については問題ないといえる。それ以外の問いについては回答がないため、分析しかねる。